

## 父島初記録となるアオバトシラミバエの採集記録

田村 英之 (父 島 在 住)  
加賀 芳恵 (小笠原自然文化研究所)

### 要 約

小笠原諸島父島において、2016年6月および2017年4月にアオバトシラミバエを採集した。父島において同種はこれまで記録がなかった。

### I. はじめに

シラミバエ科に属する昆虫は鳥類や哺乳類に寄生し、日本からは26種が記録されている (Mogi *et al.*, 2002)。その生活史の大半を宿主の身体上で過ごすため偶発的に採集されることが多く、現在でも基礎的な分布や宿主情報などについて不明な点が数多く残されている (佐藤ら, 2008)。アオバトシラミバエ *Ornithomya avicularia aobaonis* は日本では北海道から奄美大島にかけて記録されており、小笠原諸島では母島で記録されている (Mogi *et al.*, 2002)。

筆者らは、これまで記録がなかった父島においてアオバトシラミバエを採集したので報告する。また、標本はそれぞれ採集者が保管している。

### II. 記録

#### 1. 採集記録

1 ♀ 東京都小笠原村父島字西町、2016年6月7日 加賀芳恵 採集 (図1)

1 ♀ 東京都小笠原村父島字清瀬、2017年4月27日 田村英之 採集

2016年に採集された個体は乾燥標本として保存された。翅の一部が破損しているが、小楯板剛毛の本数及び腹部腹面の剛毛配列といった形態的特徴 (Maa, 1967) からこの個体はアオバトシラミバエの♀成虫であると同定された。2017年に採集された個体は液浸標本として保管された。この個体も同様の形態的特徴からアオバトシラミバエの♀成虫であると同定された。

#### 2. 採集時の状況

2016年の個体は傷病鳥獣の保護を行っている NPO 法人小笠原自然文化研究所の事務所

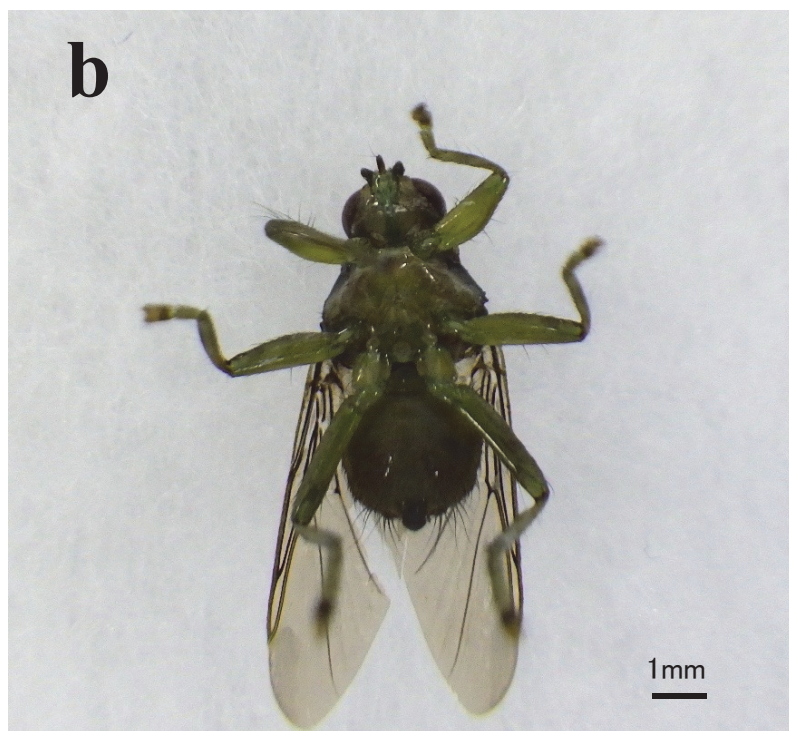


図 1 父島で採集されたアオバトシラミバエ  
a: 背面、b: 腹面

内で採集されたものである。2017年に採集された個体は住宅内で夜間に採集されたものである。この住宅の周辺にはイソヒヨドリ *Monticola solitarius*、メジロ *Zosterops japonicus* などの野鳥がよく見られるが、住宅内に鳥類が室内に入ってくることはなく、また鳥類の飼育もされていなかった。アオバトシラミバエの家屋内への侵入事例は八丈島と板橋区での事例が報告されている（山内ら、2013）。

### Ⅲ. 寄主生物について

アオバトシラミバエは11科29種の鳥類への寄生を報告されている（Mogi *et al.*, 2002；吉野ら、2003）。しかし、母島で記録された個体は鳥類から得られたものではなく（Mogi *et al.*, 2002）、本報告の2個体も鳥類から得られたものではない。今後、傷病鳥獣の保護などの際に本種が採集されれば、小笠原諸島におけるアオバトシラミバエの生態が明らかになると期待される。

### 文 献

- Maa, TC (1967) A synopsis of dipteran Pupipara of Japan. *Pacific Insects* 9 (4): 727-760.
- Mogi, M, Mano, T & Sawada, I (2002) Records of Hippoboscidae, Nycteribiidae and Streblidae (Diptera) from Japan. *Medical Entomology and Zoology* 53 (Suppl.2): 141-165.
- 佐藤雅彦・川上和人・茂木幹義（2008）小笠原諸島からのモミヤマシラミバエ *Ornithoica momiyamai* の初記録. 小笠原研究年報 31: 91-94.
- 山内健生・島田 拓・中村 昇・鶴見みや古（2013）家屋内におけるアオバトシラミバエの採集例. 都市有害生物管理 3 (2): 61-63.
- 吉野智生・川上和人・佐々木 均・宮本健司・浅川満彦（2003）日本におけるガビチヨウ *Garrulax canorus* 及びソウシチヨウ *Leiothrix lutea*（スズメ目メチドリ科）の寄生虫学的調査. 日本鳥学会誌 52 (1): 39-42.